

# あ 翔

あめつちほしそらやまかはみねたに  
くもきりむろこけひといぬうへすゑ  
アメツチホシソラヤマカハミネタニ  
クモキリムロコケヒトイヌウヘスエ  
天地星空山川峰谷雲霧室苔人犬上末  
安以宇衣於加幾久計己左之寸世曾太

- ABCDEFGHIJKabcdefghijklmnopqrstuvwxyz0123456789,!.?\*
- ABCDEFGHIJKabcdefghijklmnopqrstuvwxyz0123456789,!.?\*

或曇った冬の日暮である。

136Q / 48H

私は横須賀発上り二等客  
車の隅に腰を下して、ぼ  
んやり発車の笛を待つて

18Q / 28H

或曇った冬の日暮である。私は横須賀  
発上り二等客車の隅に腰を下して、ぼ  
んやり発車の笛を待つていた。とうに  
電燈のついた客車の中には、珍らしく  
私の外に一人も乗客はいなかった。外  
を覗くと、うす暗いプラットフォーム  
にも、今日は珍しく見送りの人影さえ  
跡を絶つて、唯、檻に入れられた小犬

12Q / 20H

或曇った冬の日暮である。私は横須賀発上り二等客車の  
隅に腰を下して、ぼんやり発車の笛を待つていた。とう  
に電燈のついた客車の中には、珍らしく私の外に一人も  
乗客はいなかった。外を覗くと、うす暗いプラットフォーム  
オムにも、今日は珍しく見送りの人影さえ跡を絶つて、  
唯、檻に入れられた小犬が一匹、時々悲しそうに、吠え  
立てていた。これらはその時の私の心もちと、不思議な  
位似つかわしい景色だった。私の頭の中には云いようの  
ない疲労と倦怠が、まるで雪曇りの空のようなどんよ

28Q / 36H

或曇った冬の日暮である。私は横須  
賀発上り二等客車の隅に腰を下して、  
ぼんやり発車の笛を待つていた。と

18Q / 28H

或曇った冬の日暮である。私は横須賀発上り二等客車の  
隅に腰を下して、ぼんやり発車の笛を待つていた。とう  
に電燈のついた客車の中には、珍らしく私の外に一人も  
乗客はいなかった。外を覗くと、うす暗いプラットフォーム  
オムにも、今日は珍しく見送りの人影さえ跡を絶つて、  
唯、檻に入れられた小犬が一匹、時々悲しそうに、吠え

12Q / 20H

或曇った冬の日暮である。私は横須賀  
発上り二等客車の隅に腰を下して、ぼ  
んやり発車の笛を待つていた。とうに  
電燈のついた客車の中には、珍らしく  
私の外に一人も乗客はいなかった。外  
を覗くと、うす暗いプラットフォーム  
にも、今日は珍しく見送りの人影さえ  
跡を絶つて、唯、檻に入れられた小犬  
が一匹、時々悲しそうに、吠え立  
てていた。これらはその時の私の心もちと、